

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---





氏 名 立 松 英 純

論 文 題 目

Correlation between Magnifying Narrow-band Imaging
Endoscopy Results and Organoid Differentiation
Indicated by Cancer Cell Differentiation and its
Distribution in Depressed-Type Early Gastric Carcinoma

(陥凹型早期胃癌における NBI 併用拡大内視鏡像と胃癌細胞の
分化ならびにその分布に基づいた類器官様分化との相関)

論文審査担当者

主 査 員 小寺 泰 弘 
委 員 名古屋大学教授
委 員 柳野 正人 
委 員 名古屋大学教授
委 員 高橋 雅 英 
指導教授 名古屋大学教授
後 藤 彦 実 

論文審査の結果の要旨

陥凹型早期胃癌の組織型と NBI 併用拡大内視鏡により観察される微小血管構造の密接な関連が指摘されている。しかし、進行胃癌では同一の組織型にもかかわらず早期胃癌のように特徴的な微小血管構造を認めないため、組織型に加えて他の要因の存在が推察される。一方、胃癌細胞の形質発現に関する研究の進歩に伴い、形質発現の差異により臨床像が異なる事が報告され、形質発現と NBI 併用拡大内視鏡像の関連性が検討され始めたが不明な点が多い。

本研究では、何が特徴的な微小血管構造を決定している要因であるかを明確にする目的で、癌細胞の分化とそれぞれに分化した癌細胞の粘膜内での分布様式と微小血管構造の関連について検討し、陥凹型早期胃癌に認められる特徴的な NBI 併用拡大内視鏡像の成立要因を明らかにした。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 陥凹型早期胃癌の特徴的な微小血管構造は癌細胞の分化により規定されず、癌細胞の分化だけでは微小血管構造の規定要因とは成り得ない。
2. 特徴的な微小血管構造と organoid differentiation の有無に強い相関が認められ、分類困難な微小血管構造を示した場合は organoid differentiation の割合が有意に少ない事が確認された。
3. 分化した癌細胞が正常粘膜細胞と同じ分布(organoid differentiation)を示すか否かが、特徴的な微小血管構造を決定する上での重要な要因である。

本研究は、拡大内視鏡によって観察される陥凹型早期胃癌の特徴的な血管構造の成立要因について、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。